

秋田・根子荒田I遺跡

ねこあらた

所在地 秋田県仙北郡美郷町六郷字根子荒田

調査期間 一〇〇六年(平18)五月~七月

発掘機関 美郷町教育委員会

調査担当者 山形博康・高橋和大

遺跡の種類 遺物包含地・集落跡

遺跡の年代 平安時代~近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

根子荒田I遺跡は、六郷弾正道行が永禄二年(一五五九)に築城したとされる六郷城の北東約七五〇mに位置する。今回の調査面積は二二〇〇m²である。場所

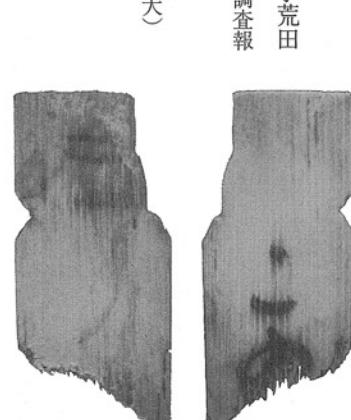
によつては一九五六年から

五九年にかけて行なわれた耕地整理の影響を受けてい

る。

検出した遺構は、土坑九

基、溝状遺構三条、旧河川一条、竪穴状遺構二基、掘立柱建物四棟、性格不明遺



8 木簡の釈文・内容

(1) 「△」〔のカ〕
・「▽」〔記号〕

・「▽」(記号)

(64)×28×4 039

上端左部と下端は欠損しているが、側面に切り込みが確認である。

木簡の形態から荷札であると思われる。なお、釈読にあたつては、亀井日出男氏、佐々木志光氏、及び秋田県教育庁払田柵跡調査事務所の高橋学氏のご教示を得た。

9 関係文献

美郷町教育委員会『根子荒田

I遺跡』(美郷町埋蔵文化財調査報

告書四、一〇〇七年)

(高橋和大)

構一基、柱穴様ピット五三基である。各遺構の構築時期は、出土遺物から判断して平安時代から近世に属するものである。

基本土層は、表土、遺物包含層である黒褐色土層、遺構確認面である黄褐色土層の二層に分けられ、木簡は黒褐色土層から一点出土した。